

令和2年度（2020年度）

学校運営評価報告書

武雄看護学校

評価対象期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

学校長 溝口 克弘

1. 学校運営評価の目的

看護師等養成所として教育水準の維持・向上と創意工夫のある教育の追及を図るため、学校運営評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

2. 学校評価委員

委員氏名	所属
溝口 克弘	武雄看護学校 学校長
末藤 智子	武雄看護学校 副学校長
吉川 優紀	武雄看護学校 看護科 教務主任
平川 千里	武雄看護学校 准看護科 教務主任
横田 千春	武雄看護学校 看護科 副教務主任
西 涼子	武雄看護学校 看護科 副教務主任

3. 評価基準

各項目の達成度により、下記の5段階で自己評価する。

- 5（よい）：9割
- 4（ややよい）：7割
- 3（普通）：5割
- 2（やや不十分）：2割
- 1（不十分）：1割

4. 学校運営評価（自己評価）の内容

- I.教育理念・教育目的
- II.教育目標
- III.教育課程・経営
- IV.教授・学習・評価課程
- V.経営・管理課程
- VI.入学
- VII.卒業・就業・進学
- VIII.地域社会/国際交流
- IX.研究

学校運営評価

令和3年3月6日(土):自己評価実施

内容	番号	評価項目	評価尺度					評価の視点	各項目の自己評価	
			よい 5	ややよい 4	普通 3	やや 不十分 2	不十分 1		○	×
I 教育理念・教育目的	1	学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか。		✓				教員全員で教育課程を検討する場を設けている。	✓	
								理念、目的、目標と一貫性のある内容となっている。	✓	
								学校の独自性が盛り込まれている。	✓	
								教育課程評価を行い結果を次年度に反映させている。		✓
								社会情勢にあわせた内容を含んでいる。	✓	
								時代の要請に応じて、必要時、修正している。	✓	
II 教育目標	2	卒業時において持つべき看護師・准看護師の資質を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。		✓			看護師・准看護師として身につけておくべき資質が、知識・技術・態度の側面から明文化されている。	✓		
							教育目標を学生に説明する機会を設けている。	✓		
							教育目標の到達状況を教員間で確認する機会がある。	✓		
							教育目標に照らし、卒業時の到達度を評価している。		✓	
III 教育課程・経営	3	実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。			✓		実習先にカンファレンスルームや学生が記録や学習をする場所が整備されている。	✓		
							学生の学習を促進するための図書等が実習施設に整備されている。	✓		
							学生が実習中は、指導者が毎日勤務し、学生指導、教員との連絡調整、カンファレンスへ参加している。	✓		
							実習指導者が固定(1週間程度)した病棟を選択している。		✓	
							同じ診療科の実習場所に重複して行かないよう実習病棟が確保されている。		✓	
							教員の専門性が活かされた体制になっている。		✓	
	4	実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。	✓				定期的に指導者会を開催している。	✓		
							実習指導者と教員との事前打ち合わせ、事後反省会を行っている。	✓		
							学生の日々の学習内容や指導方法について教員と指導者で常に意見交換している。	✓		
							より質の高い実習指導体制を整えるために、指導者と教員が参加する学習会等が企画されている。	✓		
							実習指導者、教員の役割を明文化したマニュアル等がある。	✓		
							各実習科目毎に指導要項を作成して実習施設にも配布し活用している。	✓		
	5	実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。	✓				患者への倫理的配慮に関するガイドラインを作成している。	✓		
							受け持ち患者に説明し、事前に同意を得ている。	✓		
							患者への倫理的配慮について指導を行い、学生は倫理にもとづいた言動を心がけている。	✓		
							倫理的な事柄に関連した患者からの苦情申し立てがない。	✓		
	6	実習時のインシデント/アクシデント等を分析し、学生指導に活かしているか。	✓				学生が受持つことについて患者(家族)から文書による同意を得ている。	✓		
							インシデント等発生時のマニュアルを作成している。	✓		
							実習前後に安全教育を実施している。	✓		
							インシデント等の情報が速やかに報告され、教員間、学生間で共有している。	✓		
							学生が関係したインシデントについて、分析し再発防止に取り組んでいる。	✓		
							教員・指導者・学生が協働して事故予防策を検討している。	✓		
	7	学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。			✓		実習科目ごとに安全カンファレンスを実施している。	✓		
							課題に沿った研修を企画している(内容・講師・日程・時間数など)。	✓		
						教職員の90%以上が参加している。	✓			
						他校にも参加を呼びかけている。		✓		
8	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。		✓			他校から参加者がいる。		✓		
						教員が参加しやすい日に伝達講習が計画されている。	✓			
						公費学会参加者は全員が伝達講習または文書による報告を実施している。	✓			
						伝達講習の内容を組織的に教育に取り入れている。	✓			
				自費で学会参加した人も伝達講習をしている。		✓				

内容	番号	評価項目	評価尺度					評価の視点	各項目の自己評価		
			よい 5	ややよい 4	普通 3	やや 不十分 2	不十分 1		○	×	
III 教育課程・経営	9	教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。					✓	短期臨床研修の参加者は当該年度10%程度である。	✓		
								3年程度を目途に各教員の臨床研修計画を立てている。		✓	
当該年度、臨床研修への参加者希望者全員が研修に参加できている。									✓		
長期臨床研修に参加できるように参加予定者の業務分担等が考慮されている。									✓		
5年以上臨床から離れている教員は全員臨床研修を終了している。									✓		
10	教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。						✓	学内授業の参観日を計画している。		✓	
								教員が授業研究に参加できるように計画している。		✓	
								教員の90%程度が授業公開をし、実施後の評価会を行っている。		✓	
								全教員が授業公開をし、事後後の評価会を行っている。		✓	
IV 教授・学習・評価過程	11	授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。				✓		内容が具体的である。	✓		
								シラバスに示された内容を実施している。		✓	
								1科目につき、担当者を3人までにしている。(専門基礎分野を除く)		✓	
								前年度の評価結果(前年度がカテゴリー総括、授業評価アンケート等を参考に、各担当者で授業(講義・演習・臨地実習)案を検討している。		✓	
								実施結果や学生の反応を踏まえて見直しを行っている。	✓		
								定期的に担当者間(外部講師を含む)の調整をしている。		✓	
	12	効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。							時間割作成時に授業担当教員と調整をしている。	✓	
									時間割は学生の状況に合わせて作成している。		✓
									学習の順序性を考慮した時間割となっている。		✓
									学生への時間割り発表は1ヶ月以上前に行っている。		✓
									学生への時間割り発表は3ヶ月以上前に行っている。		✓
	13	授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。						✓	各領域で授業案を検討している。		✓
									各領域で実習指導案を検討している。		✓
									学校やカテゴリーとして授業評価の結果を分析し、授業内容や指導方法に反映させている。		✓
									全教員が2回以上の授業公開を参観している。		✓
14	(看護科) 学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。	✓						教員は、初回授業で科目目標、評価目標等を学生に説明している。	✓		
	(准看護科) 全科履修に向けた支援を実施しているか。							教員は未修了科目の分析をしている。		✓	
								実習において教員は学生に未修了の理由を説明している。		✓	
								教員は、学生が未修了となった理由を自己分析するよう指導している。		✓	
								教員は、学生の自己分析結果に基づき、対応策を学生と検討し、指導している。		✓	
								成績不振者を対象として定期的な学習会等を実施している。		✓	
15	学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。					✓		評価基準を書面で提示している。	✓		
								評価方法及び評価結果を学生に説明している。		✓	
								模範解答が一定期間掲示されている。		✓	
								各領域で試験問題が検討されている。		✓	
								演習や実習の評価を複数で行うよう努力している。		✓	
								演習・実習について公平・妥当な評価を目指し基準の見直しを毎年行っている		✓	
V 経営・管理課程	16	学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解されているか。					✓	単年度の組織目標を策定し、それを職員に周知している。		✓	
								組織目標を設定する際に教職員の意見を取り入れている。		✓	
								前年度評価を生かし、学校の状況を踏まえた目標である。		✓	
								組織目標は文章化し、学校以外にも公表している。		✓	
								組織目標は局・部の目標との整合性がある。		✓	
								中・長期的目標も策定している。		✓	
	17	組織目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の目標につなげているか。						✓	組織目標を単年度で評価している。		✓
									評価結果から次年度の課題を明確にしている。		✓
									評価結果を教職員に周知している。		✓
									中間評価を実施し、その結果を後期に活かしている。		✓

内容	番号	評価項目	評価尺度					評価の視点	各項目の自己評価		
			よい 5	ややよい 4	普通 3	やや 不十分 2	不十分 1		○	×	
V 経営・管理課程	18	学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。				✓		運営評価結果を教職員に周知している。	✓		
								運営評価結果をもとに改善計画を策定している。		✓	
									運営評価結果をホームページ等を通じて公表している。		✓
									中間評価との関連で改善計画を見直している。		✓
	19	管理職のリーダーシップのもと、両科主任がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮し問題解決に当たっている。	✓					主任会や教務会など学校運営上の重要事項の検討及び共通認識の場として機能している。	✓		
								人材を適材適所に配置する工夫を行っている。	✓		
								各係内だけでなく全職員間で連携やコミュニケーションをとる機会を設けて機能している。(定期的な全体会等)	✓		
	20	学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか。				✓		専任教員は全員が、授業評価を実施している。	✓		
								専任教員は全員が自己評価を実施している。		✓	
								非常勤講師に対して、協力を依頼し、授業評価を実施している。	✓		
								学生及び実習施設に、結果を伝えるシステムがある。		✓	
								評価結果について学生と意見交換している。		✓	
	21	より多くの応募者を確保することに努めているか。			✓			学校説明会は参加者の利便性(曜日・時間)を考慮して開催している。	✓		
								各高等学校等に出向き学校案内を行っている。(准看護科)	✓		
								学内に「学生確保プロジェクトチーム」等を設置し、前年度結果を分析し計画的な確保対策を実施している。	✓		
								入学者の出身高校等に学生生活の様子を報告している。	✓		
	22	国試・資格試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。			✓			各学年に対する指導方針が明確である。	✓		
								国試・資格試験対策委員会を作っている。	✓		
								前年度不合格者に対して、指導、情報提供を行っている。	✓		
								国試の合格率が全国平均を、資格試験の合格率が県内の平均を上回っている。		✓	
								国試・資格試験の合格率が100%である。		✓	
	23	経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。	✓					奨学金、授業料減免など経済的支援の相談に応じるとともに、情報を提供している。	✓		
								カウンセラーの存在、役割を学生に周知している。	✓		
								必要に応じて学生の同意のもとカウンセラーと連携をとっている。	✓		
								カウンセリングが必要と思われる学生に教職員からカウンセリングを勧めている。	✓		
								カウンセリングを受けていることのプライバシーが守られている。	✓		
							専用のカウンセリングルームを設けている。	✓			
24	学生の身体的側面の健康確保に努めているか。		✓				健康診断後の指導、相談がなされている。	✓			
							適宜、校医と情報交換をしている。	✓			
							敷地内は完全禁煙になっているとともに、禁煙教育を行っている。	✓			
							インフルエンザなどの感染予防対策について周知啓発している。	✓			
							相談員等は、必要時、慢性疾患等のある学生の情報を得て指導している。	✓			
							校医による健康相談日を設定している。		✓		
							保健室は男女別に設けられている(二つ以上ある)。		✓		
25	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。	✓					年間計画に基づき計画的に予算・事業執行を行っている。	✓			
							計画的に設備品の充実などを行っている。	✓			
							授業料等の滞納がほとんどない。	✓			
							組織的に経費の節減対策を行っている。	✓			
26	学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。		✓				学校が保有する個人情報を周知するとともに、個人情報保護宣言を行っている。	✓			
							学生の実習記録の管理についてルール化している。	✓			
							情報資産を校外に持出していない。	✓			
							教職員対象に人権・個人情報保護に関わる職員研修を行っている。		✓		
							倫理委員会を設置し個人情報の保護や倫理的配慮が必要な問題について検討を行っている。	✓			
					パワーハラスメント対策等、学校独自の取り組みをしている。	✓					

内容	番号	評価項目	評価尺度					評価の視点	各項目の自己評価	
			よい 5	ややよい 4	普通 3	やや 不十分 2	不十分 1		○	×
V 経営・管理課程	27	災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。また、防犯・交通安全意識の向上に努めているか。				✓	危機管理マニュアルを作成し、随時見直している。	✓		
							総合防災訓練を年1回実施している。	✓		
							不審者の侵入に対し監視体制が整備されている。		✓	
							教職員の緊急連絡網をもとに連絡訓練を年1回行っている。	✓		
							学生用災害時の食糧・飲料水を三日分備蓄している。		✓	
							防犯・交通安全講習会など開催し、学生に受講させている。		✓	
	28	学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。		✓			学生の意見や要望を聞く場を設けたり、意見箱を設置している。		✓	
							意見要望ついて、学内の会議で対応策を検討している。	✓		
							意見要望への回答を必要に応じて公開している。	✓		
							意見や要望に基づいた改善を行っている。	✓		
	29	施設・設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。			✓		耐震基準をクリアしている。	✓		
							車椅子での利用可能なトイレ・スロープを設置している。		✓	
							校舎にエレベータを設置している。		✓	
							構造上変更できない部分を他の方法で補う努力をしている。	✓		
	30	教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。		✓			教育目標の達成に必要な適切な教材が整っており、活用されている。	✓		
							PCは授業時一人1台使用できるように整備している。		✓	
							学生の自主的な学習のために、教材や施設・設備を活用させている。	✓		
							インターネット検索のできる学生用PCが3台以上ある。	✓		
	31	学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。		✓			学生が自由に使用できるホールがある。		✓	
							学生が福利厚生に使える予算が組まれている。	✓		
							学生用の施設は、時間外も使用できる。		✓	
							可能な範囲で長期休業日にも利用可能となっている。	✓		
	32	図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。		✓			図書室の利用促進のための情報提供など必要な措置を講じている。	✓		
							蔵書・雑誌について、定期的に廃棄等整理を行っている。	✓		
							長期休業中の利用・時間外利用を認めるなど図書サービスの向上に努めている。	✓		
							計画的に新刊書を購入し、学生へ最新の知識・情報の提供に努めている。	✓		
							教員による情報提供・検索サポートを実施している。		✓	
定期的に図書室だよりなどを発行している。								✓		
33	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。	✓				学生数に応じたスペースが確保されている。	✓			
						保健師助産師看護師学校養成所指定規則第四条の八※および、看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについての第7の5・6・7、別表9・10に定められた備品・設備が整備されている。	✓			
						備品・設備の点検を定期的に行っている。	✓			
						学生が備品・設備を学習のために使うことができるためのシステムが確立している。	✓			
						特別な設備・備品(デモコーナー・移動リフトなど)が整備され、活用されている。	✓			
							✓			
34	学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。		✓			昨年の評価を生かした広報計画を年度当初に策定している。	✓			
						HPは受験生が求める情報を掲載している。	✓			
						HPは定期的(年6回程度)に更新している。	✓			
						HPは卒業生に必要な情報を掲載している。		✓		
						HPは年10回程度更新している。	✓			
						HPはトップ画面から必要項目に入りやすいつくりになっている。	✓			
						広報活動の結果、説明会参加者増、受験生増となっている。	✓			
VI 入学	35	入学生への支援を行っているか。	✓			入学前の説明会を実施している。	✓			
						入学生への学習支援(事前課題)を実施している。	✓			
						入学後にオリエンテーションを実施している。	✓			
						入学後の個別相談に応じている。	✓			
						入学後1か月以内の個人面談を実施している。	✓			

内容	番号	評価項目	評価尺度					評価の視点	各項目の自己評価	
			よい 5	ややよい 4	普通 3	やや 不十分 2	不十分 1		○	×
VII 卒業・就業・進学	36	卒業生への支援を行っているか。				✓		卒業後にホームカミングデイを実施している。		✓
			卒業生へ就業継続への支援事業を行っている。					✓		
			卒業生も図書室を利用することが可能である。	✓						
			既卒者、中途退職者に対し就職相談にのるシステムがある。					✓		
	37	卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。				✓		入学時から県内への就職に向けてガイダンスを行っている。		✓
			社会人入試及び推薦入試入学生の県内就職率が95%程度である。					✓		
			就職者に占める県内就職率が85%程度である。					✓		
			進路指導において、県内病院等の募集情報を収集し、学生に提供している。	✓						
	38	進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。				✓		進学、就職に関して相談に応じるとともに、情報を提供している。	✓	
			進学、就職のための面接、論文指導を行っている。					✓		
			卒業生を学校に招き、先輩との就職懇談会を実施するなど直接職場の様子を開ける場を設けている。					✓		
			卒業生の来校時等に就職先の情報収集をし、適宜、在校生に情報提供している。					✓		
VIII 地域社会 / 国際交流	39	地域社会の一員として、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。				✓		地域住民を対象にした公開講座を年1回実施している。		✓
			地域のボランティア活動への参加を促している。					✓		
			学校祭等学校行事に地域住民等が参加している。					✓		
			地域自治体等との連絡会等を持っている。					✓		
			学校として地域の団体等の行事に参加している。					✓		
			地域の小中高校の教育活動に協力している。					✓		
			リカレント教育として地域の病院・施設、実習病院や近隣看護学教員等に授業を公開している。					✓		
IX 研究	40	教員が計画的に研究調査活動を行えるよう体制を整えているか。				✓		教員の80%程度が研究調査活動に参加している。		✓
			研究調査日を活用しやすい環境がある。					✓		
			「授業研究」が行われる全カテゴリーに各1名の参加者がいる。					✓		
			教員の90%以上が研究調査活動に参加している。					✓		

評価尺度の基準

5(よい):9割 4(ややよい):7割 3(普通):5割 2(やや不十分):2割 1(不十分):1割

